

井の口まちづくり会通信

井の口まちづくり会 設立・平成20年3月23日
 発行・平成22年4月1日・第5号通信
 責任者・堀 達夫(井の口まちづくり会会長)
 〒500-8003 岐阜市大宮1-17 ☎058-263-9540
 事務局長・河崎良史
 E-mail・malo@he.mirai.ne.jp

第3回まちづくり会総会を4月29日(祝)に開催

会員の皆様、出席願います

新しい年度が始まり「井の口まちづくり会」も3年目を迎えることになりました。

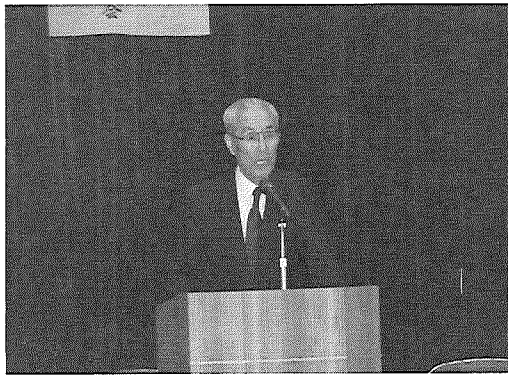
本年は、昨年度より懸案の井の口地区の景観保全問題を最重要事業と捉え、また引き続き、視察研修、井の口寄席、句会などを実施してまいります。

つきましては、歴史博物館で開催する総会に会員の皆様をはじめ多くの方のご参加をお願いいたします。このまちを愛する皆さんがつくるまちづくり会です。

●日時 平成22年4月29日(祝) 午後1時30分～

受付開始は午後0時30分

●場所 歴史博物館 1階講堂



昨年の総会での堀会長

●年会費納入のお願い●

平成22年度の年会費を総会の受付にて徴収させていただきます。
 個人会員1口500円、団体1口1,000円～
 また、各部会(裏面参照)への参加申し込みも同所で受け付けます。

総会特別講演 「まちの宝を活かして、歩いて楽しいまちづくり」

愛知産業大学大学院教授 延藤安弘先生

昨年2月に井の口地区で、岐阜市にぎわいまち公社による「たんのう まちづくり楽集会」が延藤先生を講師に開かれました。

井の口のまちを自ら歩き、参加者とともにまちの特徴を導き出す手法などを用いて「井の口」のことを熟知されています。特別講演では、延藤先生ならではの切り口で、楽しく愉快に語っていただきます。



延藤安弘先生のプロフィール
 大阪府大阪市生まれ。建築家、都市研究者、都市計画家、教育者、地域プランナー、地域活動家。まち育ての研究と実践、人材育成のほかに各地でスライドを駆使した「幻燈会」を開いて啓蒙につとめる自称「まち育ての語り部」。岐阜市内の各地で「まちづくり楽集会」を開催。工学博士。現在、愛知産業大学大学院教授。

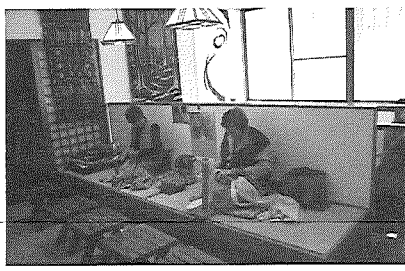
日帰りバス視察研修に参加者は46名 楽しく有意義な視察研修

11月8日(日)早朝、バスいっぱいの参加者46名が有松・白壁両地区への視察研修に出発しました。

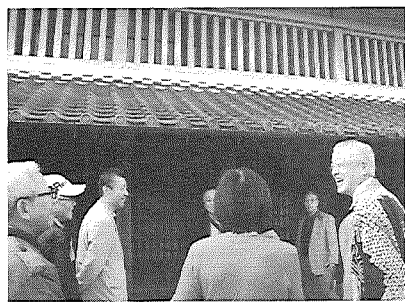
絞りで有名な有松まで1時間半、到着後「有松あなびとの会」の成田代表より地区の概要をお聞きし、その後5班に分かれ案内役から古い建物の由来や保存のための苦労などを伺いました。昼食後の自由時間には、有松絞りの作業工程を見学したり、絞り製品のお土産などを皆さん楽しんで買い求めました。

午後からは、名古屋城下の古い町並みが残る白壁地区へ移動。「文化のみち・撞木館」の兼松館長より地域の説明を受けたのち、撞木館、豊田佐助邸、川上貞奴邸などを見学しました。これらの施設の保存のために、名古屋と地元の方々の強い意欲と思いの深さに感銘しました。

駆け足の日程ではありましたが、有意義な研修に来年も参加したいという声が多くありました。



有松絞りの実演を見学



あなびとの会の案内役とまちを見て歩く参加者

●視察研修アンケート報告

視察研修に参加した全員からアンケートをいただきました。質問事項は「視察研修の企画内容」と「井の口まちづくり会の活動」についてです。

今回の視察研修に関しては、ほとんどの方から好評をいただき、有松・白壁を見て井の口地区を見直すきっかけになった。他地域のまちづくり会と交流ができ今後の活動の参考になった。まちづくり活動に興味を持った。などの意見が多くありました。

また、井の口まちづくり会に対しては、景観やまちの風景について考えたい。勉強会や研修会などにこれからも参加したい。といった心強い意見も多くあり、今後のまちづくり活動への参考にさせていただきます。



川上貞奴邸の前で参加者全員で記念撮影

「御鯨街道ウオーク」にまちづくり会も参加

岐阜市制と笠松町制120周年を記念して、10月17日(土)におおよそ300名が参加して「御鯨街道ウオーク」が開催されました。

コースは岐阜市川原町から笠松町木曾川湊までの約9キロ。昔ながらの宰領と桶を担いだわらじ履きの飛脚の1団を先頭に、歴史探訪とウォーキングを楽しみながらの行程です。

木挽太鼓の演奏で出立イベントが始まり、挨拶のあと参加者に鮎のなれ鮎が提供されました。

井の口地区では、知っている人が少ない御鯨所跡を明示し、古地図によるパンフレットを作成して井の口まちづくり会として配布しました。

その後はお鯨街道(白木町通り)を経て、白山の溝端公園でランチタイム休憩をし、午後から天候が崩れましたが、笠松から木曾川湊のゴール地点まで多くの参加者が到着しました。

今回の成果により、今年の秋に第2回目の開催を実行委員会では予定しています。

岐阜公園総合案内所が完成

岐阜公園の西北口に完成した岐阜公園総合案内所は、「信長公の鼓動が聞こえる歴史公園」として現在岐阜市が整備を進めている岐阜公園のエントランスにあたります。

かつて公園内にあった「若き日の織田信長像」を正門脇に移設し、建物は戦国時代の武家屋敷などを模した立派な造りです。総合案内所をはじめ、トイレやレンタサイクルポートなどがあり、三重塔を望むことができる展望台も設置されていて、歴史公園である岐阜公園の案内のみならず、来園者の皆さんに楽しんでいただける施設となっています。

建物内には、まちなか案内所やラーメンなどの軽飲食コーナーが設けられ、岐阜ゆかりの土産物販売所もありますから、ご家族や友人などを誘ってぜひお立ち寄りください。

景観の勉強会を計画

皆さんご承知の通り、梶川町から大宮町への道路拡幅工事が進んでいます。直接関係する地域の方々にはそれぞれ説明会等が催されてきましたが、「井の口まちづくり会」としてもこの事業を捉え、まちの景観をより良くさせる観点から提案できる事柄があると考えます。

井の口まちづくり会では、まちの風景検討部会が中心となって景観をテーマに、道路拡幅事業を対象とした勉強会を今年度の最重要事業として開催することを計画しています。

行政の担当者招いて、設計士や景観に関する専門家などのアドバイスを得て資料などを作成しながら、皆さんと一緒にまちの在り方を考える場を持ちたいと考えています。

時期はまだ未定ですが、日程が決まりましたらお知らせしますので、ご参加をお願いいたします。

平成21年度「井の口まちづくり会」部会活動報告

井の口に広がるまちづくりの輪

井の口まちづくり会の活動は各部会のメンバーが主体となって運営しています

イベント部会

リーダー 杉山 秀子

井の口まちづくり会が誕生した当初は、フェスティバル部隊として活動していましたが、2年目からはイベント部会と改め、ぎふ大仏フェスティバルにおいて2日間、子どもたちのゲームを担当しイベントを盛り上げています。

また、大仏フェスティバルに飾られた行灯の絵を岐阜公園イルミネーションの会場に飾り付けており、来場者にも好評を得ています。

2月には「井の口寄席」を妙照寺本堂において開催しました。昨年はぎふ町家情報バンクに協力という形でしたが本年からは主催し、継続事業となりました。

全日本学生落語選手権策伝大賞に全国の大学から193名が参加され、そのうちの10名に出演していただき、提灯が並ぶ妙照寺本堂がわか仕立ての寄席会場となって笑いの輪に包まれました。

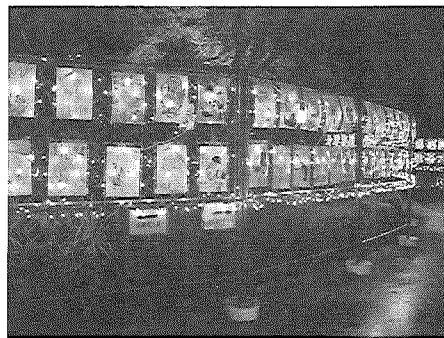
本年は、決勝に残られた立命亭雷都さんと特別賞受賞の桜ん坊恋歌さんの落語を聞くことができました。



提灯と高座がマッチする妙照寺の本堂



大仏フェスティバルでゲーム



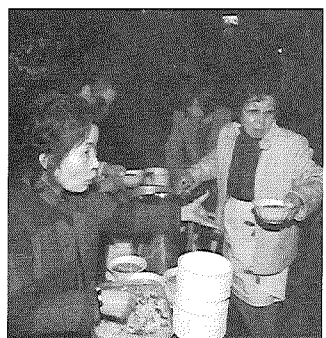
岐阜公園に飾り付けられた行灯

大変寒い夜でしたが、中入りに女性部手づくりの温かい豚汁をふるまいました。

この日の入場者は83名と大盛況で、出演関係者あわせて100名以上にもなり、皆さんに笑いと美味しいひとときを味わっていただきました。

また、3月に行われた句会では、お抹茶のお接待をして喜んでいただきました。

これからもまちづくり会におけるイベントを盛り上げていきたいと考えています。



豚汁のふるまい



桜ん坊恋歌さん

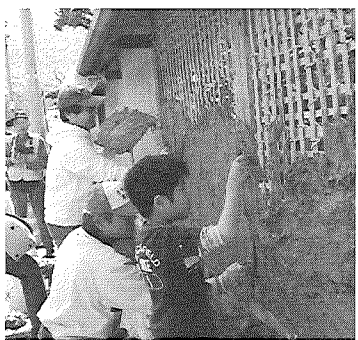
まちの風景検討部会

リーダー 堀 智仙

先進のまちづくり地域を視察して自分たちのまちづくり活動に活かすことを目的に、秋晴れに恵まれた日曜日に46名の参加者を得てバスで有松と白壁地区へ出かけました。有松では、絞り染めとともに生きる人たちの心につれ、まちづくりの原点を改めて再発見し、白壁地区では、起点となる建物を生かしたまちづくりりに新たな方向性を見せさせていただきました。



文化のみち・撞木館を見学



壁土を塗り込む参加者たち

また、4月29日には妙照寺「しっくい塗りイベント」と題して高塀の荒壁塗りを皆さんにさせていただきました。

記録では、寛政3年（1791）建て直しとあり、何回か修復された後、最後が文化2年（1805）とあり、実際に204年ぶりの修復です。お陰様でこのまちの景観を守る事ができ、子孫に昔ながらの面影を伝え残せることを感謝いたします。

まちの歴史探索部会

リーダー 中村 末雄

妙照寺に松尾芭蕉が約1か月滞在してこの地に多くの俳句を残していることから、11月に大野鶴士先生をお招きして「句碑めぐり勉強会」を開催しました。予想を上回る50数名の参加者と芭蕉の句碑を訪ね歩き説明を受けました。



句碑をめぐりながら説明を聞く参加者

3月には、「俳句こと始め」と銘打って、妙照寺会館にて大野先生による初心者向けの勉強会をした後、庭に出て各自俳句を作りました。

参加者は申し込み枠を越える32名にもなり、提出句を選び合う時間的余裕が取れず、先生が一句一句詠み上げては解説をされ、俳句づくりの楽しさ難しさを教えていただきました。今後も引き続き開催しました。今後も引き続き開催



大野先生から俳句を学ぶ参加者

事務局だより

事務局長 河崎良史

当日提出された46句の中から、先生に選んでいただいた優秀作をご紹介します。山裾の寺の賑はう梅の花 鈴木ふみ子 亡き母に香りとどけよ梅の花 堀 達夫 鳥鳴きお山のふもと梅香る 鷲見 玲子 ひとつ葉の群れたる岩場草青む 馬場わかよ 三尺の水かけ地蔵(お)桃の花 井上とし子

選評 初心者用の句会です。新鮮な眼で、今日の様子をしっかりと捉えています。梅の花から思う情のこもった句、目や耳を使って発見した句などです。また、(や)一字を取ることのでいい句になります。

広報通信作成部会

年2回の「通信」を発行するとともに、まちづくり会におけるイベントの広報チラシを担当しています。しかしながら、役員と事務局が主導することになるためか、会員の皆さんの参加が最も少ない部会です。今後は、このまちの身近な情報や活動に参加された方たちのコメントなども掲載し、まちづくり会の最新情報をより早くお伝えできるようにと考えています。

そのためには通信の回数を増やす必要があり、人手が足りません。まちづくり会活動やイベントに参加して、写真や文章、イラストなどを作成していただける人の参加をお待ちしています。また、まちの情報もお寄せください。

「まちなかアート部会」メンバーを募集

平成22年度からの事業として、井の口のまちそのものがギャラリーとなり、私の家の美術品やアート作品、手づくりクラフト、収集品などでまちを飾ろうと企画しています。これから立ち上げる部会ですから何も決まっておりませんが、こんなことに興味や趣味がある方、私の家の玄関先を開放してもいいと考えられる方、面白いアイデアをお持ちの方など、新部会へのメンバーを募集いたします。また、上記活動中の部会への参加者もまだまだ募集しています。一緒に楽しくまちづくりをしませんか？

あつと言う間に2年が経過しました。役員改選が2年任期なので、丁度トラックを一周したところでしょうか。役員会はほぼ毎月行なっており、部会活動も活発になってきたように思えます。

一周目では組織の確立と充実に心がけてきました。役員会と部会がこの会の両輪といえます。役員の方々の出席率はかなり高く、毎回活発な意見交換が繰り返されています。また、部会には一般会員が多く参加し、活発な活動ができることが会の発展につながるものと考えております。今後も総会や各イベントの時に部会入会をお願いを続けますので、ぜひご参加をお願いします。

まちづくり会が発展していく過程で陥りやすい現象が、役員と会員との距離が離れていくことです。役員は、一生懸命活動しているのに会員には伝わらない。一般会員の側から見れば、何をやっているのか分からない。「井の口まちづくり会」はそうならないように、会報や回覧、部会の活動を通して一体感を続けて行きたいと事務局は努力していきます。